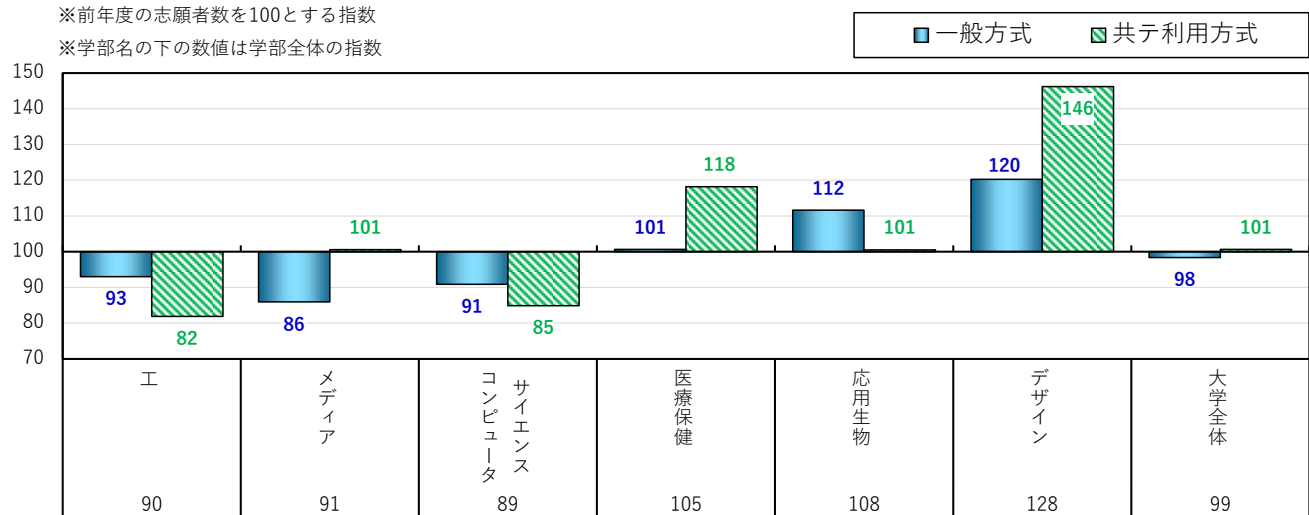


東京工科大：大学全体では前年度並だが、増減が3学部ごとに分かれた 一般：-166人 共テ：+27人

※前年度の志願者数を100とする指数
 ※学部名の下の数値は学部全体の指数



主な入試変更点 試験会場：全学部<一般・奨学生>…水戸、千葉、松本、福岡追加
 選抜方法：医療保健、応用生物、デザイン…<共テ・前期2科目>新規実施
 応用生物、デザイン…<共テ・後期2科目>新規実施

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、139人(99)の微減だが、3年連続減少。学部別では、6学部中で増減が3学部ずつに分かれた。方式別では、一般方式は166人(98)の微減だが3年連続減少。試験会場を追加した<一般・奨学生>(129)の大幅増加が目立った。共通テスト利用方式は2科目型方式の新規実施の効果や2年連続減少の反動はなく、27人(101)の微増。

<一般方式>

- 工(93)**は、やや減少。学科別では、3学科中2学科が減少で、(機械工)(86)、(電気電子工)(92)は減少。一方で、(応用化)(106)はやや増加で3年ぶりの増加。
- メディア(86)**は、減少。方式別では、<B日程>(79)、<A日程>(84)はいずれも大幅減少。
- コンピュータサイエンス(91)**は、前年度大幅増加の反動で減少、志願者数は2年ぶりに2,000人を下回った。専攻別では、(コンピュータサイエンス/人工知能)(88)は前年度増加の反動で減少、(コンピュータサイエンス/先進情報)(93)は前年度大幅増加の反動は小さくやや減少。
- 医療保健(101)**は、2年連続大幅減少の反動は小さく、微増。学科・専攻別では、前年度6学科・専攻全てで大幅減少だったが、増加が3学科・専攻、減少が3学科・専攻と均等に分かれた。(看護)(89)は、(リハビリテーション/作業療法学)(89)はいずれも3年連続減少。一方で、(臨床検査)(109)は5年ぶりに増加。
- 応用生物(112)**は、2年連続減少の反動で増加。専攻別では、(応用生物/食品・化粧品)(117)は大幅増加、(応用生物/生命科学・医薬品)(106)はやや増加で2専攻もいずれも増加。
- デザイン(120)**は、2年連続減少の反動で大幅増加。専攻別では、(デザイン/視覚デザイン)(121)、(デザイン/工業デザイン)(120)の2専攻のいずれも大幅増加。

<共通テスト利用方式>

- 工(82)**は、大幅減少、志願倍率は11.1倍→9.1倍にダウン。学科別では、3学科とも減少。(電気電子工)(73)、(機械工)(85)は大幅減少、(応用化)(90)は減少。
- メディア(101)**は、2年連続減少の反動はなく、前年度並。方式別では、<前期>(101)は前年度並だが、<後期>(92)は減少。
- コンピュータサイエンス(85)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。2019年度以降、前年度の反動による大幅な増減が継続。専攻別では、(コンピュータサイエンス/人工知能)(77)は前年度増加の反動で大幅減少、(コンピュータサイエンス/先進情報)(90)も前年度大幅増加の反動で減少。
- 医療保健(118)**は、2年連続大幅減少の反動に加えて、<前期2科目>の新規実施もあり、大幅増加。学科・専攻別では、6学科・専攻中4学科・専攻が増加。(リハビリテーション/理学療法学)(139)、(臨床検査)(128)、(看護)(119)は大幅増加。一方で、(臨床工)(77)は3年連続大幅減少、(リハビリテーション/言語聴覚学)(81)は大幅減少だが、志願者実人数は4人減少のみ。
- 応用生物(101)**は、<前期2科目>、<後期2科目>を新規実施したが、前年度並。専攻別では、2020年度の改組以降を見ると(応用生物/生命科学・医薬品)(85)は3年連続減少。一方で、(応用生物/食品・化粧品)(114)は初めての増加。
- デザイン(146)**は、2年連続減少の反動と<前期2科目>、<後期2科目>の新規実施もあり大幅増加。専攻別では、2020年度の改組以降を見ると(デザイン/工業デザイン)(150)は大幅増加で初めての増加、(デザイン/視覚デザイン)(143)は大幅増加で2年連続増加。